

***** 2010.9.22 発行*****

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

編集・発行：日本マラウイ協会
〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24 青年海外協力協会気付
Tel. 03-3447-2921 Fax 03-5798-4269
Home Page <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>
E-mail japan-malawi@auone.jp

【マラウイ共和国】

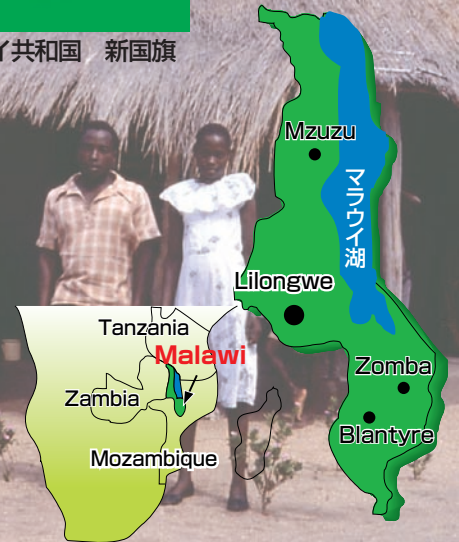
面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)
人口：1428 万人 (2008 年世界銀行)、首都：リロングウェ
独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語
政体：共和制、大統領：ピング・ワ・ムタリカ
為替レート：US\$1 = MK 147.890 (9 月 5 日現在)
MK 1 = 0.55 円(9月5日現在)

【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。会員数：295人(9月1日現在)



マラウイ共和国 新国旗



ニュース

マラウイ国旗変更

マラウイ NATION 紙ウェブサイトの 2010 年 7 月 30 日付け報道によると、ピング・ワ・ムタリカ大統領は 7 月 29 日、国会を通過した国旗変更法案に同意した。また、マラウイ政府の公式ウェブサイト (<http://www.malawi.gov.mw>) の右上トップには既に新しい国旗が掲げられている。

当会は現在、駐日マラウイ大使館に対し、変更に関する経緯等の詳細情報を照会中である。回答があり次第、当会ホームページに掲載する。

ニュース

MBC と TVM が合併

MBC (Malawi Broadcasting Corporation : マラウイ放送協会) と TVM (Television Malawi : テレビ マラウイ) は 2010 年 7 月 1 日付けで合併した。存続側は MBC。6 月 29 日、情報省副大臣が発表した。ピング・ワ・ムタリカ大統領は前の TVM 会長代行のブライト・マロバ氏を MBC 会長に指名した。

マラウイの公共放送は 1999 年まで MBC のラジオのみで、同年にテレビ放送が始まったが、その運営は TVM により行われていた。合併後は MBC がテレビとラジオを兼営することになる。これは隣国のザンビア、ジンバブエで行われているのと同じ経営形態。

(情報提供：マラウイ在住会員 小林由季氏)

ニュース

第 28 回通常総会と理事会開かれる

日本マラウイ協会の第 28 回通常総会が 2010 年 5 月 8 日 (土) 15:00 から、東京・渋谷の JICA 地球ひろばセミナールームで開かれた。

第 1 号議案では平成 21 年度事業報告と決算報告および会計監査報告が次の 4 つの分野について行われた。

- (1) 広報活動：機関紙 KWACHA 第 42 号、第 43 号発行など
- (2) 文化・交流活動：国情セミナー・シマを食べる会開催など
- (3) 国際協力活動：第 5 回マラウイウォームハートプロジェクト「観光施設建設プロジェクト～お土産店および観光用牛車建設」の最終

報告書受領、マラウイ母の会への協力など
(4) 組織活動：会員の入会勧誘活動など。

第 2 号議案の平成 22 年度事業計画と予算案では、前年度と同様に広報活動、文化・交流活動、国際協力活動、組織活動を中心に活動を展開していくことが示された。特に、文化活動には 10 年前に発刊したチェワ語辞典改訂統合版の再訂版発行が盛り込まれた。

第 1～2 号議案は質疑応答の後、議長が一同に諮り、満場一致で承認された。



▲ 審議の様子

一方、7 月 31 日 (土) 13:45 からは同じく JICA 地球ひろばセミナールームにて理事会が開かれた。同理事会では、今年度の事業計画に「地方レベルでのマラウイの宣伝活動」の検討と「マラウイ日本協会との協働推進」について検討を進めることなどが追加承認された。

イベント

第 4 回協力隊まつり

日本マラウイ協会は、2010 年 4 月 3・4 日 (土・日)、JICA 地球ひろばで開かれた「第 4 回協力隊まつり」に出展した。

これは、2005 年 10 月に開催された「青年海外



▲ 地球ひろば前庭の様子

協力隊 (JOCV) 発足 40 周年記念ボランティアフェスタ」をきっかけに高まった帰国隊員の意識を継続し、さらなるボランティア事業の啓発・広報を踏まえたボランティアの募集拡大に対し、経験者がその一翼を担うことを目的に、青年海外協力協会 (JOCA) が主催者となり 3 年前に始めたものである。

当日は、地球ひろばの前庭と 3 階の体育館/セミナールームなどを会場とし、前者には飲食販売の団体が、後者には主に展示主体の団体がテントやブースを構えた。



▲ テントでマンダジを調理販売

日本マラウイ協会は前庭にテントを構え、マラウイのお菓子「マンダジ」の調理販売を、3 階体育館のブースでは、写真パネル展示、当会出版物やマラウイの民芸品、マラウイ母の会製作の「チテンジバッグ」の販売を行った。

イベント

国情セミナーとシマを食べる会

日本マラウイ協会では 2010 年 7 月 31 日 (土)、マラウイ独立 46 周年を記念して、東京・広尾の JICA 地球ひろばで国情セミナーとシマを食べる会を開催した。

今回の行事に参加された青年海外協力隊 平成 5 年度 2 次隊の水守綾香さん (SE : システムエンジニア) からの寄稿を下に掲載する。

シマを食べる会に参加して 平成 5 年度 2 次隊 SE 水守綾香

平成 22 年 7 月 31 日の広尾はとても暑い、夏真盛りでした。

私にとっては、14 年半ぶりに訪れる所です。

確実に、14年という月日が流れていて、私が3ヶ月寄宿した訓練所は「JICA広尾 地球ひろば」と名称を変え、「青年海外協力隊 広尾訓練所」という石碑も場所が変わっていました。食堂はおしゃれなレストランに、国内スタッフのオフィスは「地球ひろば」になり、外見も変わっていて、以前のことを忘れてしまっている私には、思い出すのにしばらく時間が必要でした。

「食べる会」の前に、マラウイの国情セミナーがマラウイ臨時代理大使のMs. Grace B. Karongaにより、英語で報告頂きましたが、その内容の理解についていけず、そんな自分にも時の流れを感じました。

彼女を始めとする紹介されたマラウイ出身の方々にお目にかかり、他の国ではない、確かに「マラウイアン (マラウイの方々) だ」という印象を受けました。初めて、任国に赴いてマラウイアンに出会った時、他のアフリカ諸国の方々とは違う印象を受けたことを懐かしく思い出したのです。

また、慰霊碑への献花やテープから流れる国歌を聴くと同時に、訓練中の慰霊祭やブランタイアのドミトリーの庭の慰霊碑を思い出しました。一瞬、14年余の月日の経過を忘れていました。



▲ 慰霊碑前で

「食べる会」が始まり、久しぶりに「シマ」を口に、「ああ、こんな食感だったなあ」と懐かしさを感じました。おいしい、まずいという思いは、ありません。やはり、「懐かしさ」でした。

東京周辺には、多くのOB・OGの方がいらっしゃって、参加すれば懐かしいお顔を拝顔できると思っていたら、残念ながら、私の任期と重なる方にはお会いすることが叶わず、少し残念に思いました。しかし、同伴者 (広尾訓練所の元職員) が、顔が広くて、久しぶりの交流に花を咲かせていたので、その事は、私自身もお誘いして良かったなあと思えました。

毎年、ご案内を頂きながら、その度に「もう一度食べてみたい」と思いを馳せながら、「遠方」を言い訳にお断りの返事を出してきました。

今年が、「いつか参加したい」と願っていた機会だったようです。また、「こんな機会を作れたらいいなあ」と考えています。「懐かしさ」のみを述べた感想になり、申し訳ありません。

企画や当日の準備・お世話など多くの方のご苦勞もあり、楽しいひと時を過ごささせていただき、嬉しく思います。ありがとうございました。また、お会いしましょう!

Zikomo Kwambwili, Teo nana Tiklina!
(で チェワは良かったかしら?)



▲ お開き前の記念集合写真

イベント

国情セミナー要旨

- 日時：2010年7月31日(土) 15:00~16:00
- 場所：JICA地球ひろば 2階セミナールーム
- 講師：駐日マラウイ国臨時代理大使
Ms. Grace B. Karonga

1. はじめに

マラウイ大使館員とここに出席のマラウイ人にかわり、今年もシマを食べる会にお招きくださったことに対して、日本マラウイ協会にお礼を申し上げます。私たちは今年もここに来ることができて喜んでおります。

お話を進める前に、大使館員の交代をお知らせいたします。

- ・ ルーズベルト・ゴンドウエ大使は2010年5月20日に離日し帰国の途につきました。現時点で大使館は新大使の着任を待っています。
- ・ E.Z. チリマ参事官は2010年7月24日に離日し帰国の途につきました。
- ・ 大使館は新しい外交官としてローズリン・マブドゥラー等書記官を迎えました。彼女は2010年7月16日に来日しました。
- ・ 大使秘書の牧野さんは2010年6月30日に退職し、かわりにモブスピ珠江さんが引き継ぎました。

例年にならって、マラウイの下記の話題について簡単にこの1年間のご紹介をしたいと思います。

- ・ 政治面での展開
- ・ 経済
- ・ 農業と食糧安全保障
- ・ グリーンベルトと水資源開発
- ・ 交通インフラストラクチャーとンサンジェ世界内陸港開発
- ・ 総合農村開発
- ・ 保健、衛生、HIV/AIDS対策
- ・ 青年の育成と能力強化
- ・ エネルギー、鉱工業開発
- ・ 教育、科学技術
- ・ 通商

2. 政治面での展開

政治面では、ビング・ワ・ムトリカ大統領が2010年1月にアフリカ連合の議長に選出された。大統領はアフリカ連合の議長として以下を含む多くの会議や式典に出席している。

- ・ 上海の2010年世界万国博覧会
- ・ セネガル独立50周年記念の銅像除幕式
- ・ フランスにおけるフランス-アフリカサミット
- ・ カナダのトロントにおけるG20サミット
- ・ コンゴ民主共和国における独立50周年式典
- ・ ウガンダのカンパラにおける第15回アフリカ連合サミット

3. 経済

2008年末から2009年前半にかけて拡大した世界的な不況の影響に対してマラウイ経済は強靱さを見せた。

この時期にあってマラウイの経済は7.6%の成長率を記録した。しかもインフレ率は8.4%と1桁であった。マラウイの経済成長は政府の適切なマクロ経済政策によるものである。

4. 農業と食糧安全保障

農業と食糧安全保障におけるマラウイの成功は2005年以来世界に認められている。

政府が始めた農業投入補助プログラムは驚異的な農業生産の拡大をもたらした。とくにとうもろこしが増産された。

2009年から2010年にかけての育成期には、チクワワ県、ンサンジェ県、バラカ県において乾季が長引いた。しかし全国では320万トンのとうもろこしを生産し、必要量を80万トン上回る結果となった。

マラウイは食糧不足国から食糧生産の看板役者に転身した。

マラウイは、米、カッサバ、さつまいも、その他の穀物(ソルガム、キビ)でも高い収穫を実現した。



▲ 講演する Karonga 臨時代理大使

5. グリーンベルトと水資源開発

マラウイの経済は農業に依存し、農業の収量は降雨のパターンに大きく依存する。異常な降雨による不作を防止するために、政府はグリーンベルトイニシアティブと呼ぶ事業を立ち上げました。これは、マラウイ湖や他の水面の水を活用することによって、各世帯と全国の両方のレベルで生産、生産性、所得、食糧安全保障を高めることを目指したものです。

今までに6,000ヘクタールの土地が整備された。この結果、小規模自作農業者のかんがい面積は合計で4万ヘクタールに達し28万3,000人の小規模自作農業者が恩恵を受けることになった。彼らは主に穀物、豆類、園芸作物を栽培している。

ンカタベイとマンゴチでは複数のかんがい事業が実施された。またカロンガ、サリマ、チクワワ、ンサンジェでは設計などの準備作業が進んでいる。

水資源開発地区では、政府は井戸の修復や建設を継続している。

- ・ 83本の井戸が建設された。
- ・ 835の蛇口が修復された。
- ・ 農村と都市に400の給水所が建設された。
- ・ 新しい給水施設が整備された。

1県1ダムプログラムの下で、政府は今年さらに3ダムを建設し、合計ダム数は23になった。



▲ 講演を聴く参加者

6. 交通インフラストラクチャーとンサンジェ世界内陸港開発

どのような国でも社会経済の成長にとって信頼性が高く現代的な交通インフラストラクチャーと交通ネットワークが不可欠であることを政府は認識しており、引き続き道路の建設と修復を実施している。

第4回アフリカ開発会議(TICAD IV)の確約実施の一環として、駐マラウイ日本大使とマラウイの財務大臣はマサウコ・チベンベレ・ハイウェー

事業の第2フェーズの署名を交わした。この事業は4.36kmの道路建設を含むもので、ブランタイア市のリビングストニア通りのチチリ・ラウンドアバウト(ロータリー)からイロボ・ラウンドアバウト(ロータリー)に延伸するものである。

リロングウェ市の18区、43区、10区、47区、3区、カワレ、チリンデにおける都市道路も修復された。また全国のその他の市街部においても同様な事業が進んでいる。

政府はシレ川ーザンベジ川水上輸送事業を継続しており、その一環としてンサンジェで現代的な世界内陸港建設が進行中である。この事業は、マラウイの貿易に悪影響を与えている輸送費の軽減のために不可欠である。

航空部門でも政府は下記を含む複数の施設整備事業を実施している。

- ・ チレカ空港ターミナルの修復
- ・ カムズ国際空港の滑走路の修復
- ・ リコマの新しい滑走路の建設
- ・ カロンガ空港のターミナルビルディングと滑走路の修復と建設

7. 総合農村開発

政府は貧困削減を目指し、農村開発のために、基礎的な社会・経済インフラストラクチャーの整備、農産加工業や金融サービスの振興を続けている。

政府は、総合農村開発の分野において、都市の中心および町の中心に「農村成長センター」と「市場センター」を設置することを開発に不可欠な要素と位置付けている。

ンタリレ、ナンブマ、ネノでは「農村成長センター」の開発が進捗している。

市場開発プログラムに関しては、チョコ市場が完成した一方、エヌクウェニ、マタワレ、ドゥウングワ、マンゴチの市場は建設のさまざまな段階にある。

8. 保健、衛生、HIV/AIDS対策

保健部門における政府の目標はすべてのマラウイ人の健康の水準をあげることである。そのため、政府は、人材の開発、薬品や基礎的な機器の調達、インフラストラクチャーの開発に焦点をあてたプログラムを実施している。

昨年は、予防接種、家族計画、産科のサービスの継続的な向上も記録された。

インフラストラクチャーの開発では、政府が実施した主な事業としては以下があげられる。

(1) 建設と完成

- ・ カムズ中央病院の整形外科センター
- ・ ブワイラ産科病棟
- ・ 農村部のスタッフ用住宅250棟
- ・ カムズ中央病院のエセル・ムタリカ産科棟(記者注: エセル・ムタリカは大統領の亡妻のお名前)

(2) 修復と拡張

- ・ ゾンバ中央病院
- ・ ンカタベイ県病院

(3) バラカ県病院の格上げ

人材開発に関しては、医師、看護師、看護技師を含む871人の保健従事者が研修を受けた。

HIV/AIDSのまん延と栄養失調への戦いにおいても政府の対応には多大な進展があった。

- ・ 合計265万人が栄養支援を受けた。(HIV感染者と高齢者150万人、コミュニティ育児センターに住んでいる5歳未満児50万人、孤児65万人)(記者注: 2008年のマラウイの人口=13,077,160人)
- ・ 抗レトロウイルス療法の200拠点で栄養失調者

に対して栄養療法を実施している。

- ・ 728のセンターでHIVテストと相談を実施している。

9. 青年の育成と能力強化

マラウイの能力構築の源泉は青年であるとの認識により、

- ・ 2010年2月には「青年企業開発基金」が立ち上げられた。
- ・ 以前のマラウイヤングパイオニア訓練所が修復された。
- ・ 地方レベルで100か所の青年クラブが設立され共通の支援パッケージが提供された。

10. エネルギー、鉱工業開発

政府はマラウイ農村電化事業の第6次目を実施している。これは54交易センター(各県に2か所)の電化を目指すものである。

この事業は、人々が薪や炭のような固形燃料の使用を減らすために、複数の代替エネルギー源を設置した。

すでに一部の人々には知られているように、カロンガ県のカエレケラ・ウラン鉱山は2009年末に操業を始め、2010年3月末までに134.6トン以上の濃縮ウランを輸出した。

他の会社はンチエウのプワンジェ石灰石鉱床の企業化調査を完了した。

11. 教育、科学技術

子供たちは将来のリーダーであるという認識のもとに政府は教育に重点を置いている。

政府は教育分野で下記を含むさまざまな事業を実行している。

(1) 建設

- ・ 80小学校
- ・ 17女子寮
- ・ 小学校教員住宅

(2) 修復

- ・ コミュニティ屋間中等学校20校
- ・ チョロ、ムランジェ、マソングラの通常中等学校3校
- ・ リウオンデ教員研修短大をはじめとする技術短大
- ・ マラウイ大学とムズズ大学

(3) 小学校の事務員研修

120人がリーダーシップ技法の研修を受けた。

12. 通商

2009/2010年度には輸出は増加し輸入は減少した。輸出増加は綿とタバコの価格上昇に主導された。タバコはマラウイの総輸出額の約60%を占めており引き続きマラウイの主要輸出品である。

輸入では、石油について肥料が主要品目である。政府は中小企業の支援を続けており、農業、園芸、農産加工、貯蓄と融資分野の15協同組合を登録している。このことにより農家に対して4,000の雇用機会を創出している。

通商・民間部門開発省は、チョコ、ンチシ、マチンガ、ルンピ、カスングにおいて、菌舎、産卵施設、蜂の巣箱などの現物の形で起業資本を提供している。

チョコ、ンコタコタ、ムジンバには農村企業開発センターが建設された。

13. おわりに

あらためて、マラウイ大使館員とここに出席のマラウイ人にかわり、ご清聴に感謝申し上げます。またマラウイ大使館と日本マラウイ協会の関係がいつそう強まることを希望いたします。

<数原孝憲会長からの謝辞>

ありがとうございます。GDP、食糧事情など社会経済が好調であること大変元気づけられました。

<質疑応答>

(1) 観光開発

近年の観光開発としては、マラウイ湖周辺の整備に加えて、ムランジェなどがある。外国資本がマラウイの潜在力に注目しているようだ。ンサンジェなどでは政府ではなく民間資本が国際水準の観光開発・運営を進めるようにしている。一方、首都リロングウェでは国際的なホテルが建設中であり、郊外では国際会議センターの開発が近々始まる。とくにリロングウェは変わりつつある。

(2) 外国人のビジネスへの進出

マラウイでビジネスを行う中国人が増えていることは経済に良い影響を与えているのではないかと個人的には思う。従来、業種によってはインド系の人々が支配的であったが、競争が生じて選択が広がることは良いことであろう。ただし外国人が農村部でマラウイ人による小規模事業を淘汰してしまうと問題なので何らかのチェックが必要ではないか。現在、外国人のビジネスはブランタイア、リロングウェ、ムズズに限られている。

マラウイはアジアから多くを学びつつある。

(3) サッカー

マラウイはワールドカップの強者ではないが、国の代表チームだけでなく女性チームもあり大統領はサッカーを奨励している。ただし専任のプロの指導者はいない。

投稿

OSADANDAURA

昭和63年度3次隊 体育
辻本美智子(旧姓: 福田)

主人(辻本 誠)の調整員赴任に付いてマラウイに16年振りやってきました。

カムズ・バンダ政権から変わって長髪もズボンもOKと聞いてマラウイもずいぶん変わったことだろうと思っていたら、空港は昔のまま。空港からオールドタウンまでの道(M1)も記憶のままでした。

また、マラウイで暮らせる日が来るなんてサイコー! 隊員時代にとっておいたマラウイクワッチャを使う時がやってきたと一人で喜び、嫌がる子供達を母親の権力を力で行使してマラウイにきました。しかし、カムズ・バンダの顔が入ったお金はとっくに使えなくなって、回りに笑われてしまいました。

子供達が南アで飼っていた猫がマラウイに輸送されて来たので迎えに行くと、空港で手厚く(冷凍保存)保護を受けていたのには驚きました。食料品だろ! って担当官は、真顔で言っていた

そうです。オサダンダウラ〜。皆さんナマ動物を送るときは、注意してください。

そんなこんなで始まったマラウイの生活でした。最初の頃は、運転手がいたので家事をする位でした。そのとき時の大事なことは、お米の確保でした。我が家は、米好き家族なの



▲ ジャカラランダの木の下の子どもたち

で石のない米、おいしい米を求めて奔走していました。ブンジエ米の新米を200kg買占め、辻本家の印象を米にってしまったこともありました。ある隊員に「いつも米・米・米って騒いでいましたね。」って言われたっけ・・・

私はマラウイに戻ったらやりたいことが2つありました。1つは、隊員時代によく行っていた「カニヤニヤ」に行きたいことでした。「カニヤニヤ」と言えばニワトリ(鶏肉)だったけど今は、牛(ハンブ)が主流になっていてちょっと物足りなさを感じていました。Greenとカニヤニヤは、サイコーの組み合わせです。

もう1つは、なんつってGOLF!です。家がゴルフ場から近くて本当に良かったです。家の片付けを済ませれば5分後には、Teeに立っていました。

学校で毎学期に毎週一度Cake Saleがあり、子供に売りに来て欲しいとせがまれて3年間続けました。学校の様子が分かることと、色々なお菓子が見られてですごく楽しかったです。

動物保護のチャリティを目的としたイベントに子供達が参加するので、隊員に声をかけて一緒に参加(TVのニュースに出たかな)してもらったり、

IWAM (International Women's Association of Malawi)のバザーではJICAブースで巻き寿司を売りつくしたりと色々なことにチャレンジできて、それらを通じて友人も出来たととても楽しかったです。

マラウイにいた時は、幸運に恵まれていたとも言えます。ナミテテの隊員のところに頼んでいたものを取りに行くと“マドンナ”がやって来た! ちゃっかり握手をしてもらって、とてもラッキーでした。クジでも本当に良く当たっていました。もしかしたら運を全部マラウイで使い切ってしまったと思うほどクジにはよく当たっていました。



▲ マラウイ湖の漁

その半面、車には恵まれずドワングワからの帰りにサリマロードの途中で車がスタックしてしまい、マラウイアンに助けってもらったことがありました。その時のリロングエまでの道のりはとても長く感じて仕方ありませんでした。後で助けてくれたのは、農業大臣だったらしい…。帰国まで修理した車で2度とサリマロードを走ることは、ありませんでした。オサダングウラ〜。「きっと車は、みちこさんの運転についてこれなかったんでしょう」とある専門家に言われてしまいました。

マラウイでの生活を思うとき、隊員と飲むことも楽しいことの1つでした。若い隊員と飲むことは、若返りの薬のようなものでした。飲みながらつまみも作っていたので、キッチンでよく飲んでいました。17年度2次隊の送別会では、急に消えたり(テーブルの下に転がって)して皆さんを驚かしてしまっただけでも恥ずかしくも楽しい思い出です。ジャカラダの季節には、花見がてらゴルフクラブで飲んだこともありました。本当に良く飲んで楽しんだ4年間でした。こうした生活が送れたのも主人や子供達の理解があったからです。-感謝-

最近のマラウイ関係テレビ/ラジオ番組/記事

- (1) 2010.5.25
毎日新聞朝刊
マラウイ男性同士婚約に有罪
- (2) 2010.6.11
南部アフリカフォーラム
(駐日マラウイ臨時代理大使発言)

日本マラウイ協会2010年3月～2010年8月主な活動内容

(1) 2010.3.24	3月例会、KWACHA第43号発行	(6) 2010.6.23	6月定例会
(2) 2010.4.3～4	第4回協力隊まつり出展(1面記事参照)	(7) 2010.7.21	7月定例会
(3) 2010.4.28	4月定例会	(8) 2010.7.31	理事会、国情セミナー・シマを食べる会(1-3面記事参照)
(4) 2010.5.8	第28回通常総会(1面記事参照)	(9) 2010.8.25	8月定例会
(5) 2010.5.26	5月定例会		

日本マラウイ協会情報

■ お知らせ

当会前会長の秋山忠正氏(元協力隊を育てる会理事、元関東鋼線株式会社社長)は平成22年8月16日、ご逝去されました(享年91歳)。8月20日の告別式には、当会から数原会長、貝塚専務理事らが参列しました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

■ グローバルフェスタ2010に出展

日本マラウイ協会は本年10月2・3日(土・日)に東京・日比谷公園で行われるグローバルフェスタ2010に出展します。展示販売ではチテンジバッグの販売などを行う予定です。皆様どうぞおいで下さい。また、お手伝いいただける方は当会へご連絡下さい。

■ KWACHAバックナンバー

当会は2010年2月26日に設立27周年を迎えましたが、設立時の機関紙KWACHA第1号から第44号(今号)までの全バックナンバーをPDFファイル化し、当会ホームページへ掲載しています。是非ご覧ください。

URL: <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>
から「日本語」を選択、左端のメニューから「機関紙KWACHA」をクリックすると、右ページに号数一覧が出てきますので、希望の号数をクリックしてください。

■ 日本マラウイ協会の刊行物

(1) マラウイ旅行ガイド 新訂第2版(97年7月発行)「アフリカの暖かき心、湖とサバンナの大地へ」B5版108ページ 1部 1,200円(送料210円)

(2) 国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」第2版(94年7月発行)A4版40ページ 1部 1,000円(送料210円)

送料は「ゆうメール(旧冊子小包郵便物)」扱いで表示しています。上記2種類を1冊づつご注文の場合は次のとおりです。

(1)+(2) = 290円

購入ご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載の銀行口座宛に、代金および送料をお送りください。

●送金される場合は、事前に必ず注文内容(希望する「刊行物名」、「部

数」、「発送先」、「申込者の氏名、電話番号」)をメールまたはFAXでご連絡ください。

■ ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、下記当協会宛へご遠慮なくお寄せください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちで、ご希望の方は、あわせてご連絡ください。

■ 日本マラウイ協会 月次定例会

日本マラウイ協会では、原則毎月第3水曜日18:30～に、東京都内(通常はJICA広尾地球ひろば 会議室)で、月次定例会を開催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。詳しくは当協会までお問い合わせください。

■ 日本マラウイ協会 入会方法等

入会申込書を当会ホームページからダウンロード(<http://www.h4.dion.ne.jp/~malawi/application.doc>)し、各項目記入の上、E-mail添付で当会へお送り下さい。E-mailで入会希望の旨を連絡くださっても構いません。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合1,000円+3,000円=4,000円)を下記のいずれかの銀行口座へお送りください。また、継続会員の方の年会費(個人正会員の場合3,000円)は、E-mailまたはFAXでご連絡の上、お送りください。

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-2-24

青年海外協力協会気付 日本マラウイ協会

TEL: 03-3447-2921 FAX: 03-5798-4269

E-mail: japan-malawi@auone.jp

(1)三菱東京UFJ銀行 東恵比寿支店 普通口座255739

口座名義: 日本マラウイ協会事務局 貝塚光宗

(2)ゆうちょ銀行 〇九店(ゼロイチキヨウ店)

当座預金口座 0013125 口座名義: 日本マラウイ協会

(ゆうちょ銀行から送金する場合は、口座番号: 00190-7-13125)